

「**大国間時代の日米同盟**」研究会：台湾有事が起こる蓋然性や様々なシナリオを検討し、日米の有識者へのヒアリングを行うとともに台湾有事の机上演習を実施。演習はマトリックスゲームというプレイヤー間の相互作用を重視した最先端の手法を用いて行い、ターン毎に各プレイヤーが取った行動の理由を互いに説明し合うことで、それぞれの行動の意味を理解することに努めた。

「『**大国間競争の時代**』の朝鮮半島と秩序の行方」研究会：韓国大統領選挙および北朝鮮の核・ミサイル開発の次の局面に関心を払いつつボトムアップ型の分野別情勢分析を実施。韓国では、地域、世代、ジェンダーなどの多様な対立軸が浮上していること、北朝鮮においては体制の安定と「人民生活の向上」の切迫度が増しており、対外スタンスにも影響を及ぼしていること等が明らかになった。

「**大国間競争時代のロシア**」研究会：ロシアを代表する有識者へのヒアリングを行い、下院選挙後のプーチン体制の見通し、米ロ関係の行方、ロシア・ウクライナ関係などについて意見交換。内政面ではプーチン自身が体制の虜となってしまっており、彼の後継者が見つけられない問題点があること、外交面ではロシアは「恐怖感を輸出する」ことで政治的影響力を確保しており、プーチン体制が続く限り西側とは対立的な関係とならざるをえない、といった知見が得られた。

# <成果②> シンクタンク・有識者との連携（発信を含む）

## 日本の政策表明と世界有数の有識者による議論

○日米同盟、対北朝鮮、対ロシアなど日本の外交政策や主張を広く発信

・東京グローバルダイアログ（2022年3月2-3日）関係各国の著名な有識者が多数登壇し、軍事面での米中対立、朝鮮半島情勢などを議論。またロシアの有識者も複数登壇する中で直前に起こったロシアのウクライナ侵略について討論

・「日米安保セミナー」（2022年2月16-18日）地域経済および経済安全保障においても指導力を発揮するという日本の主張を広く発信

・「核抑止の今日と東アジアの戦略環境」（2022年3月16日）ウクライナ戦争が、米国の「核態勢の見直し」（NPR）や東アジアの戦略環境にどのような影響を及ぼすのかについて議論



## 海外のシンクタンクとの連携強化

・朝鮮日報社主催の「Asian Leadership Conference」、ロシア世界経済国際関係研究所（IMEMO）主催「プリマコフ・リーディングス」など、世界の要人も出席する国際シンポジウムに理事長・所長が登壇し、国際秩序を巡る議論で日本の立場をアウトプット

・国家安保戦略研究院（INSS）をはじめ、韓国の主要シンクタンクを網羅する定期協議で日本の見方を発信、他国のシンクタンクも加えた会議も定期開催するなど連携をさらに強化

・既存の定期協議に加え、ロシアの代表的なシンクタンク・プラットフォームであるバルダイ・クラブへの招請参加、在日大使館からの要請に応じる形でジョージア、ウズベキスタンなど旧ソ連圏のシンクタンクとも協議を行うなど連携を拡大



# 海外主要シンクタンク・有識者との活発な意見交換・ウェビナー開催により グローバルな知的ネットワークの構築と対外発信

# 発展型総合事業 B 「大国間競争時代の日本の安全保障」 <成果③> 内外への積極的な発信

## ウェビナー開催

- ・「ウクライナ危機を遠望する—プーチン・ロシアと現代の危機」  
 (2022年3月17日)  
 ウクライナ情勢の急展開を受け、日本を代表する有識者を網羅したウェビナーを適時に実施し、ウクライナ戦争の背景を歴史・政治・経済等の視点から多角的に分析・討論を行い、国民の理解増進に寄与（一般視聴者500名以上が申し込み）



## メディアへの出演・寄稿等を通じた対外発信（計94回）

- ・アジア・欧州・ロシア・米国・台湾など、急変する情勢について国内はもとより海外の新聞、テレビ、雑誌等を通じて数多く対外発信し外交・安全保障への関心に対応
- ・防衛当局者を対象とする専門誌や学会誌など専門性の高い活字媒体にも寄稿し、幅広い層へのアウトリーチを実践



## 国研戦略コメント：4本

核抑止体制から見たウクライナ情勢、台湾有事への備えを再確認した日米「新台湾条項」の意味、中国・ロシアのディスインフォメーション戦術への対応方案、米ロ共同宣言などにつき、提言を含め日英両言語で発信

## 研究レポート：19本

与党の圧勝に終わったロシア下院選の内実と統治構造の変化、ロシアにおける政軍関係の変容、韓国「自主国防」路線の背景、台湾情勢をめぐり激化が予想されるディスインフォメーションなどにつき、日英両言語で発信

専門家による最先端の分析と政策提言を日英両言語で分かりやすく発信